

## はじめに

私ども千葉大学教育学部授業実践開発研究室より、研究室紀要『授業実践開発研究』第15巻を届けさせていただきます。

この紀要は、研究室に所属する者、かつて所属した者、あるいは研究室と密接に関わって研究している者による授業実践開発研究に関わる研究の成果を収録するもので、毎年1巻の発行を目指しています。

私どもの研究室は、2001（平成13）年4月、藤川が千葉大学教育学部に助教授として赴任したことによって創設され、大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻（修士課程）、大学院人文社会科学研究科公共研究専攻公共教育分野（博士後期課程）、そして教育学部小学校教員養成課程・中学校教員養成課程・生涯教育課程の学生が所属し、新しい授業、教育方法、教材を開発することに関わる研究を行うようになりました。2011年度からは大学院修士課程が改組され、教育科学専攻言語・社会系の学生が研究室に所属することとなりました。現在は、教育学部小学校教員養成課程／小学校コース、大学院教育学研究科学校教育学専攻横断型授業づくり系、大学院人文公共学府人文公共学専攻公共学コース博士後期課程等の学生が研究室に所属しています。千葉県・千葉市等から派遣される委託研究生も多く所属しています。

第1巻で詳しく論じたように、教師たちによる「授業づくり」もしくは「授業実践開発」の活動は、日本の教育界における実践の発展に大きく寄与してきました。この「授業づくり」「授業実践開発」の営みを、大学院レベルの研究として位置づけ、さらに発展させることが、私どもの課題です。こうした「授業実践開発」の研究を地道に重ね、こうして巻を重ねることができていることを、大変ありがたく思っております。

今年度も新型コロナウイルス禍にあって、授業実践開発の研究は大きく制約されました。しかしながら、キャリア教育、主権者教育、プログラミング教育、コミュニティ・スクール、歴史教育、教員の授業観、GIGAスクール環境下での一人一台端末の活用等の多様なテーマの実践的な論文を収録することができました。こうした研究成果が学校現場の実践に貢献するものとなることを願っています。

本紀要の発行においては、研究室を基盤として活動するNPO法人企業教育研究会の支援を受けており、過去の掲載論文も同法人サイト内「藤川研究室論文集」ページに、他の論文等とともに掲載しております。

今後も、多様な方々の協力を得つつ、これからの時代に必要となるテーマにおいて、授業実践開発に関わる研究を進めてまいりたいと考えています。

ご協力いただいているすべての皆様に感謝申し上げます。鋭いご批判とあたたかい応援との両方を賜れば幸いに存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

千葉大学教育学部教授  
藤川 大祐